

に公協発 - 8  
令和5年1月10日

にかほ市地域公共交通活性化協議会委員 各位

にかほ市地域公共交通活性化協議会  
会長 本田 雅之  
( 公 印 省 略 )

第3回 にかほ市地域公共交通活性化協議会の開催について (通知)

寒冷の候、貴職におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

また、日頃からにかほ市の公共交通施策に対しましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、第3回本協議会は、書面決議とさせていただきます。

ご審議いただく案件は以下のとおりとなりますので、別紙協議事項に署名のうえ、ご提出くださるようお願い申し上げます。

案 件 1. 令和4年度地域公共交通確保維持改善事業に関する一次評価

**提出期限 令和5年1月25日(水)まで**

○提出は、メール、FAX、郵送等 提出方法は問いません。

○補助金交付要項等に基づき、本協議会において協議を行い、承認を得たうえで、報告するものとなりますので、皆様のご審議をお願いいたします。

担当：にかほ市総務部総務課  
総務行革班 佐々木亮  
TEL：0184-43-7507 FAX：0184-43-5707  
ryou-s@city.nikaho.lg.jp

に公協発 - 10  
令和5年1月27日

にかほ市地域公共交通活性化協議会委員 各位

にかほ市地域公共交通活性化協会  
会長 本田 雅之  
( 公 印 省 略 )

第3回 にかほ市地域公共交通活性化協議会  
書面協議の開催結果について(報告)

大寒の候、貴職におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

また、日頃からにかほ市の公共交通施策に対しましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、過日開催いたしました令和4年度第3回本協議会・書面協議につきまして、ご多忙のところご審議いただきまして誠にありがとうございました。

ご審議いただいた結果、以下のとおり承認されましたのでご報告いたします。

ご不明な点がありましたら、事務局までご連絡ください。

1. 開催日

通知日 令和5年1月10日(火)

回答期限 令和5年1月25日(水)

2. 回答状況

委員数(会長を除く) 27名

回答数 22名

3. 協議結果

別紙

【お問い合わせ先】

にかほ市地域公共交通活性化協議会

事務局 にかほ市役所 総務課

総務行革班 佐々木亮

TEL : 43-7507 FAX : 43-5707

## 別紙

令和5年1月10日付け

第3回にかほ市地域公共交通活性化協議会書面協議の結果について

### 【案件】

案件第1号 令和4年度地域公共交通確保維持改善事業に関する一次評価

承認22名・不承認 0名

### 【結果】

案件は原案どおり承認されました。

# にかほ市地域公共交通活性化協議会

平成28年10月1日事業開始

事業名：令和4年度地域内フィーダー系統

## 生活交通確保維持改善計画

### 目的・必要性

対象路線は、生活バス路線の廃止に伴う代替運行としてコミュニティバスを運行し、交通弱者の通院や買い物のための移動手段となっている。利用者の減少が続いているものの、幹線と連結している支線を確認、維持することで市民生活の「足」の確保及び外出機会の創出につながるものであり、かつ、公共交通のネットワークの再構築を図るために必要である。

### 確保・維持する系統の概要



#### 【地域内フィーダー系統】

- ・運行事業者：株式会社象潟合同交通 ・系統数：10系統
- ・運賃：均一制200円(中学生以下、障がい者手帳保持者とその介護者1名半額)
- ・運行日：月～土(祝日、12/31～1/3を除く)  
※院内小出線及び大竹線、平沢線は月～金

### 事業・実施主体

- ・来年度に新一年生になる園児を対象としたバスの乗り方教室を実施し、安心安全に利用していただく学習機会を創出する。(にかほ市、事業者)
- ・公共交通マップを活用した座談会等の実施(にかほ市)

### 定量的な目標・効果

【目標】 令和3年度の輸送人員実績値からそれぞれ1%以上増加を目標とする。  
院内・小出線 5,067人、大竹線 7,831人、釜ヶ台線 7,313人、  
上郷長岡線 6,293人、上郷小滝線 11,830人、平沢線 3,844人

#### 【効果】

- ・各駅への接続による中心市街地の活性化
- ・既存公共交通との連携による効率的な運行体系の実現
- ・外出機会の増大による社会参加や地域活性化の促進
- ・病院や商業施設へのアクセス確保による生活環境の向上

### 基礎データ

- ・合併状況：平成17年に、仁賀保町、金浦町、象潟町の三町が合併
- ・人口：23,047人(令和4年12月末現在) ・面積：241.13平方キロメートル
- ・高齢化率：39.52%(令和4年12月末現在) ・協議会開催数：5回(令和3年10月～令和4年9月)

### 前回の評価結果

#### 【達成状況(結果)】

【内訳】A:1件 B:2件 C:2件 ※各路線毎

#### 【評価】

- ・院内小出線について、路線の再編を行い利用者が増加したことを評価します。
- ・C評価の系統は、引き続きダイヤ調整に係る協議や研修会等を実施することを期待します。

### 評価項目

### 実施状況、目標・効果の達成状況

#### 【実施状況等】

- ・新型コロナウイルス感染症による学校の休校や日常生活の外出自粛の影響があった。
- ・バスの乗り方教室も昨年に引き続き実施できなかったが、バス等の展示イベントを行い、乗降体験を通して、公共交通に関心を持っていただいた。
- ・平沢線に関しては新路線であり、当初は利用者が少なかったが徐々に認識され、利用者が大幅に増加した。

【実績】 院内小出線：6,854人(達成率：135%) 大竹線：7,037人(達成率：89%)  
釜ヶ台線：5,932人(達成率：81%) 上郷・長岡線：5,943人(達成率：94%)  
上郷・小滝線：12,660人(達成率：107%) 平沢線：6,984人(達成率：181%)

【内訳】A:3件 B:3件 C:0件 ※各路線毎

#### ※評価の判定基準

A⇒目標達成100%以上 B⇒目標達成80%以上

C⇒目標達成80%未満、又は補助対象外(1運行当たり2人未満、運行割合30%未満)

### 事業の今後の改善点

- ・昼間の便については利用者が少ない状況が続いているので、利用状況を確認しながら運行の集約・効率化の検討を行う。
- ・利用者の掘り起こしや利用機会の促進につながる研修会等の検討、実施を行う。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月26日

協議会名:                    にかほ市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:        地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株象潟合同交通	院内・小出線②-1 院内・小出線②-2  ・新一年生になる園児を対象としたバスの乗り方教室を実施し、安全安心に利用していただく学習機会を創出する。 ・公共交通マップを活用した座談会等の実施。	【前回の評価結果】 ・院内・小出線について、路線の再編を行い利用者が増加したことを評価します。 ・C評価の系統は、引き続きダイヤ調整に係る協議や研修会等を実施することを期待します。  【評価結果の反映状況】 ・利用者のニーズに応え、地域間幹線系統への接続が可能となるようにダイヤ改正を行い、地域間幹線系統との接続を改善した。	A  事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A  輸送人員は目標5,067人に対し、実績は6,854人【達成率135%】 昨年度の路線再編の効果により、利用者が今年度も増加になった。	利用ニーズを検証すると、極端に利用者が少ない系統があり、利用状況を確認しながら運行の集約・効率化の検討を行う。 新規利用者の掘り起こしや利用機会の促進につながる場などの検討を行う。
株象潟合同交通	釜ヶ台線① 釜ヶ台線② 釜ヶ台線③  ・新一年生になる園児を対象としたバスの乗り方教室を実施し、安全安心に利用していただく学習機会を創出する。 ・公共交通マップを活用した座談会等の実施。	【前回の評価結果】 ・院内・小出線について、路線の再編を行い利用者が増加したことを評価します。 ・C評価の系統は、引き続きダイヤ調整に係る協議や研修会等を実施することを期待します。  【評価結果の反映状況】 他路線との重複経路について、運行経路の集約化やデマンド化への運行形態シフトについてを協議中。 研修会等を検討していたが、コロナの影響により開催に至らなかった。	A  事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B  輸送人員は目標7,313人に対し、実績は5,932人【達成率81%】 通学利用の小中学生の減少により、利用者が減少。また、人口減少の影響もあり、利用者が減った。	利用ニーズを検証すると、極端に利用者が少ない系統があり、利用状況を確認しながら運行の集約・効率化の検討を行う。 新規利用者の掘り起こしや利用機会の促進につながる場などの検討を行う。
株象潟合同交通	大竹①  ・新一年生になる園児を対象としたバスの乗り方教室を実施し、安全安心に利用していただく学習機会を創出する。 ・公共交通マップを活用した座談会等の実施。	【前回の評価結果】 ・院内・小出線について、路線の再編を行い利用者が増加したことを評価します。 ・C評価の系統は、引き続きダイヤ調整に係る協議や研修会等を実施することを期待します。  【評価結果の反映状況】 他路線との重複経路について、運行経路の集約化やデマンド化への運行形態シフトについてを協議中。 研修会等を検討していたが、コロナの影響により開催に至らなかった。	A  事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B  輸送人員は目標7,831人に対し、実績は7,037人【達成率89%】 既利用者が高齢化等で減少するなか、新規利用者が増加していないことで、想定を下回った。	主たる利用者である高齢者のニーズ把握に努めると共に、新規利用者の掘り起こしや利用機会の促進につながる場などの検討を行う。

<p>(株)象潟合同交通</p>	<p>上郷・小滝線① 上郷・小滝線③</p> <p>・新一年生になる園児を対象としたバスの乗り方教室を実施し、安全安心に利用していただく学習機会を創出する。 ・公共交通マップを活用した座談会等の実施。</p>	<p>【前回の評価結果】 ・院内・小出線について、路線の再編を行い利用者が増加したことを評価します。 ・C評価の系統は、引き続きダイヤ調整に係る協議や研修会等を実施することを期待します。</p> <p>【評価結果の反映状況】 ・利用者のニーズに応え、地域間幹線系統への接続が可能となるようにダイヤ改正を行い、地域間幹線系統との接続を改善した。</p>	<p>A</p>	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>A</p> <p>輸送人員は目標11,830人に対し、実績は12,660人【達成率107%】 小中学生の利用は例年並みである為、新規利用者が増加していると推測。</p>	<p>利用ニーズを検証すると、極端に利用者が少ない系統があり、利用状況を確認しながら運行の集約・効率化の検討を行う。 新規利用者の掘り起こしや利用機会の促進につながる場などの検討を行う。</p>
<p>(株)象潟合同交通</p>	<p>上郷・長岡線②</p> <p>・新一年生になる園児を対象としたバスの乗り方教室を実施し、安全安心に利用していただく学習機会を創出する。 ・公共交通マップを活用した座談会等の実施。</p>	<p>【前回の評価結果】 ・院内・小出線について、路線の再編を行い利用者が増加したことを評価します。 ・C評価の系統は、引き続きダイヤ調整に係る協議や研修会等を実施することを期待します。</p> <p>【評価結果の反映状況】 ・利用者のニーズに応え、ダイヤ改正を行い、地域間幹線系統との接続を改善した。</p>	<p>A</p>	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>輸送人員は目標6,293人に対し、実績は5,943人【達成率94%】 通学利用の小中学生の減少により、利用者が減少。</p>	<p>利用ニーズを検証すると、昼間の便については利用者が少なく、運行の集約・効率化の検討を行う。 新規利用者の掘り起こしや利用機会の促進につながる場などの検討を行う。</p>
<p>(株)象潟合同交通</p>	<p>平沢線②</p> <p>・新一年生になる園児を対象としたバスの乗り方教室を実施し、安全安心に利用していただく学習機会を創出する。 ・公共交通マップを活用した座談会等の実施。</p>	<p>令和4年度新規対象路線であり、前回評価事業評価なし。</p>	<p>A</p>	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>A</p> <p>輸送人員は目標3,844人に対し、実績は6,984人【達成率181%】 新規路線であり、徐々に利用者が増加している。想定を上回る利用がある。</p>	<p>利用方法の周知や利用機会の促進につながる場などの検討を行う。</p>

※枠の大きさの変更は可能です。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	にかほ市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>にかほ市は秋田県南西部に位置し、日本海と鳥海山に抱かれたまちであり、人口23,047人(令和4年12月末日現在)、総面積241.13km<sup>2</sup>となっている。</p> <p>本市の公共交通は、鉄道1路線・路線バス3路線・コミュニティバス6路線・タクシー会社1社により構成されている。</p> <p>本市コミュニティバスは、平成20年の生活バス路線廃止に伴う代替運行として運行を開始し、現在では6路線の運行となっている。</p> <p>コミュニティバス運行は、小中学生の登下校手段の他、交通弱者の買い物や通院のための移動手段として、きめ細やかな運行を行う一方、利用実態や利用者要望等を踏まえた、ダイヤ改正等を行い、利用者の利便性向上に努めてきた。</p> <p>しかしながら、運転免許所持者に対する自家用車の保有率は依然として高く、さらに少子高齢化・人口減少により、公共交通機関の利用減少がなお継続しており、行政負担の増加が更に見込まれる。</p> <p>また、高齢化による免許返納者は増加すると想定されるとともに、自らが移動手段をもたない交通弱者は依然として存在し、地域公共交通の役割は必要不可欠となっている。</p> <p>こうしたことから、「にかほ市地域公共交通網形成計画」を平成29年3月に策定し、持続可能な公共交通体系の構築を進めてきました。また、令和4年3月には公共交通のあり方から具体的な再編内容まで検討し、市民にとって利用しやすく、将来にわたり持続可能な交通体系を構築し、公共交通のマスタープランとなる「にかほ市地域公共交通計画」を策定しました。</p> <p>さらには、公共交通の利便性を高めるとともに、地域公共交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統)を活用することにより、幹線と連結している支線を確保・維持することで、生活の「足」の確保及び外出機会の創出につながるものであり、且つ、公共交通のネットワークの再構築を図るためには、コミュニティバス運行は必要不可欠な地域公共交通となっている。</p>